

いま、風を 吹かせる vol.4

県政の運営指針「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」を力強く推進する人やその取り組みを紹介します。

農作物を通してみんなが元気に

「このお野菜おいしい」「地元で採れた旬の野菜が食べられるなんて幸せ」—食堂から、そんな声が聞こえてくる社会福祉法人相和会の8施設。ここでは今年の6月から、横手市内4地区(保呂羽、南郷、三又、狙半内)の高齢者が生産した野菜の購入を、社会実験「生きがい食材納入」として取り入れました。

きっかけは、実験の仲介役を務める秋田県南NPOセンターからの提案。「高齢者が自家消費用として栽培したものの、家族が少なくなり食べきれずに廃棄している作物を、どうにか利用したいという相談を受けて。作る人の励みになるのならばと、受け入れることにしました」(相和会・萱森真雄理事長)

計画ではダイコン、ハクサイ、ジャガイモなど18種の野菜や山菜、およそ4トンが来年3月までに届けられる予定。「地域の人々が、目に見えてイキイキしてきました。中には『もっとキレイなものを納めたい』と、栽培の改善に取り組む人もいたり。センターの整備や人材の確保が必要になるため急に規模を広げることはできませんが、これを続けることで、将来的に耕作放棄地の減少や里山の再生といったことも可能になればと思っています」(秋田県南NPOセンター・菅原賢一理事)

高齢者のみが暮らす世帯の多い中山間地を活気づけるヒント。生きがい食材納入には今、あちらこちらから熱い視線が注がれています。

秋田県南NPOセンター
秋田県横手市神明町1-9
TEL.0182-33-7015
<http://www.kennannpo.org>

社会福祉法人 相和会
秋田県横手市上境字館133-5
TEL.0182-36-1211
<http://sowakai.jp>

中山間地を
活気づける
ヒント



生きがい食材納入



写真提供 / ビハール横手・相愛保育園